

# 亶理町の結果概要について

亶理町教育委員会

## ■調査の概要

### 1 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査実施日 令和4年4月19日(火)

### 3 調査対象学年 小学校第6学年(256名)、中学校第3学年(280名)

### 4 調査事項

- (1)教科に関する調査 小学校6年生:国語, 算数, 理科 中学校3年生:国語, 数学, 理科
- (2)質問紙調査
  - ①児童生徒:学習意欲, 学習習慣, 生活習慣, 規範意識, 自己有用感等
  - ②学校:授業改善, 生徒指導, 教科の指導方法, 学校運営, 教職員の資質向上, 家庭や地域との連携等

## ■教科に関する調査結果の概要

- 小学校において、国語の平均正答率は全国平均を8.6ポイント、算数は7.2ポイント、理科は7.3ポイント下回っています。
- 中学校において、国語の平均正答率は全国平均と同等、数学では4.4ポイント、理科では1.3ポイント下回っています。
- 小学校の国語と算数の平均正答率は、令和3年度に比べて全国とのかい離は大きくなっています。特に国語では、物語を読み、物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりすることに課題が見られることから、授業で物語や伝記などを読み、内容を説明したり考えたことなどを伝え合ったりする活動を取り入れるなど、「読む」活動の工夫改善が必要です。
- 小学校の算数は、基礎的な知識・技能の定着と、論理的な根拠を提示しながら考えを述べることに課題が見られることから、繰り返し学習や体験的に学ばせることで基礎的な知識・技能の習得を図り、課題に対して自分の持っている知識・技能を生かしながら、考えたことを数学的に説明したり表現したりする活動を取り入れるなど学習方法の工夫が必要です。
- 中学校の数学は、求め方の説明や事柄が成り立つ理由を記述する問題での正答率が低いことから、数学的な見方・考え方を働かせ、解答を出すだけでなく、答えを導き出す過程を説明させることを授業で多く取り入れていくなど指導の工夫が必要です。

### 1 令和4年度の平均正答率(全国・宮城県・亶理町)

対象	教科	全国	宮城県	亶理町	全国比
小学校	国語	65.6	64	57	-8.6
	算数	63.2	60	56	-7.2
	理科	63.3	61	56	-7.3
中学校	国語	69.0	69	69	0
	数学	51.4	49	47	-4.4
	理科	49.3	50	48	-1.3

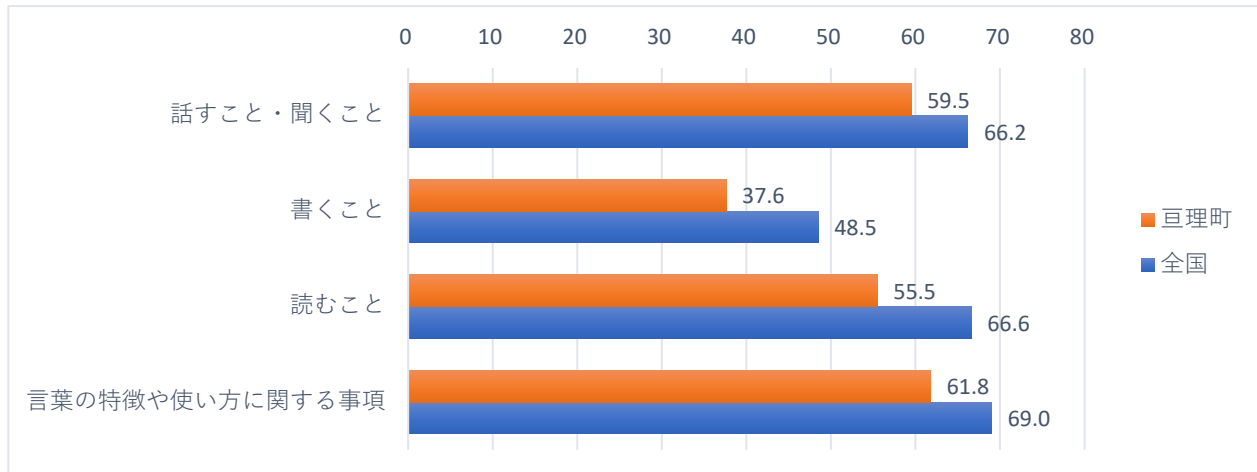
※平均正答率とは、各児童・生徒の全設問における正答数の割合(正答率)を足し合わせ、児童・生徒の人数で割った値です。

## 2 領域別の到達状況

### (1) 小学校

#### 【国語】

【平均正答率(%)】



平均正答率の全国との乖離

(◎: +5ポイント以上 ○: +1ポイント以上 ◇: -1ポイント以上+1ポイント未満 ▽: -1ポイント未満 ▼: -5ポイント未満)

#### <話すこと・聞くこと>

▽: 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える〔1三〕

▼: 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる〔1四〕

#### <書くこと>

▼: 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える〔3一〕

▼: 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける〔3二〕

#### <読むこと>

▼: 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える〔2一(1)〕

▼: 登場人物の相互関係について、描写を基に捉える〔2一(2)〕

▼: 人物像や物語の全体像を具体的に想像する〔2二〕

▼: 表現の効果を考える〔2三〕

#### <言葉の特徴や使い方に関する事項>

▼: 話し言葉と書き言葉との違いを理解する〔1一〕

▼: 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える〔1二〕

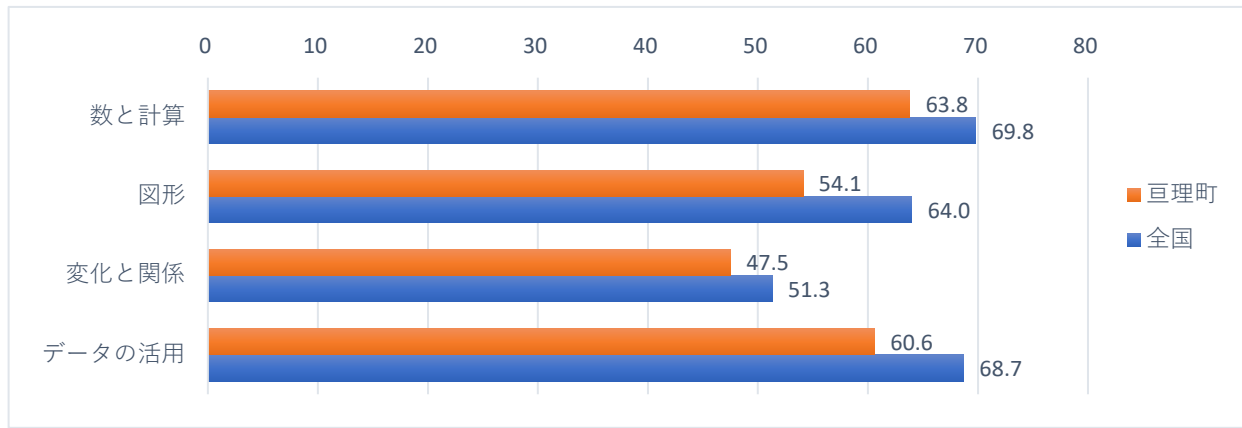
▼: 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う「ろくが」〔3三ア〕

○: 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う「はんせい」〔3三イ〕

▼: 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う「したしむ」〔3三ウ〕

## 【算数】

【平均正答率(%)】



平均正答率の全国との乖離

(◎: +5ポイント以上 ○: +1ポイント以上 ◇: -1ポイント以上+1ポイント未満 ▽: -1ポイント未満 ▼: -5ポイント未満)

### <数と計算>

- ◇: 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる〔1(1)〕
- ▽: 二つの数の最小公倍数を求めることができる〔1(2)〕
- ▼: 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる〔1(3)〕
- ▼: 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる〔1(4)〕
- ▼: 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる〔3(1)〕
- ▼: 加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる〔3(4)〕

### <図形>

- ▼: 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる〔4(1)〕
- ▼: 図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している〔4(2)〕
- ▼: 図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している〔4(3)〕
- ▽: 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる〔4(4)〕

### <変化と関係>

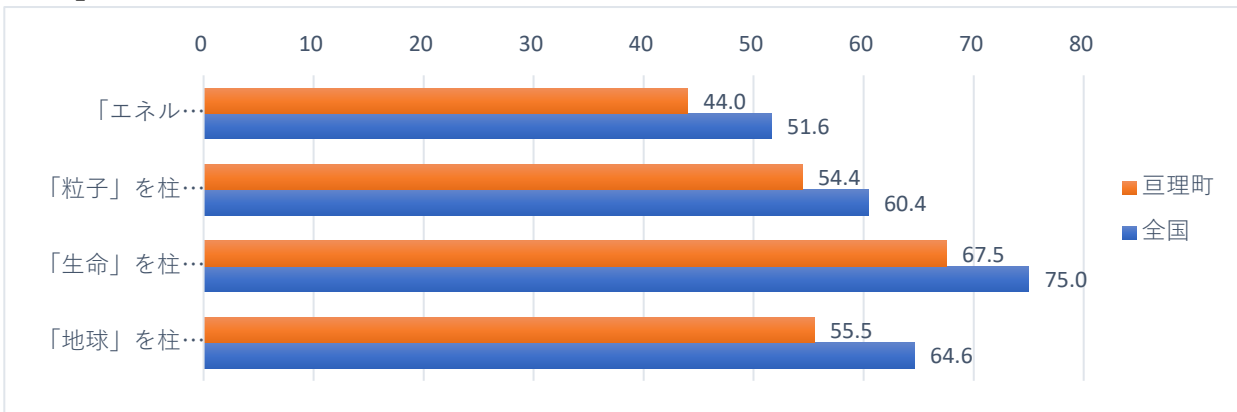
- ▽: 百分率で表された割合を分数で表すことができる〔2(1)〕
- ▼: 百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる〔2(2)〕
- ◇: 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している〔2(3)〕
- ▽: 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる〔2(4)〕

### <データの活用>

- ▼: 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる〔3(1)〕
- ▼: 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる〔3(2)〕
- ▼: 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる〔3(3)〕

## 【理科】

【平均正答率(%)】



平均正答率の全国との乖離

(◎: +5ポイント以上 ○: +1ポイント以上 ◇: -1ポイント以上+1ポイント未満 ▼: -1ポイント未満 ▼: -5ポイント未満)

### <「エネルギー」を柱とする領域>

▽: 日光は直進することを理解している[3(1)]

▼: 問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している[3(2)]

▼: 自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる[3(3)]

▼: 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる[3(4)]

### <「粒子」を柱とする領域>

◇: メスシリンダーという器具を理解している[1(1)]

▽: メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている[1(2)]

▼: 自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる[1(3)]

▼: 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる[1(4)]

▼: 水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している[1(4)]

### <「生命」を柱とする領域>

▽: 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる[1(1)]

▼: 自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる[1(2)]

▼: 昆虫の体のつくりを理解している[1(3)]

▼: 提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる[1(3)]

▼: 観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる[1(3)]

### <「エネルギー」を柱とする領域>

▼: 自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる[3(3)]

▼: 観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる[4(1)]

▼: 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる[4(2)]

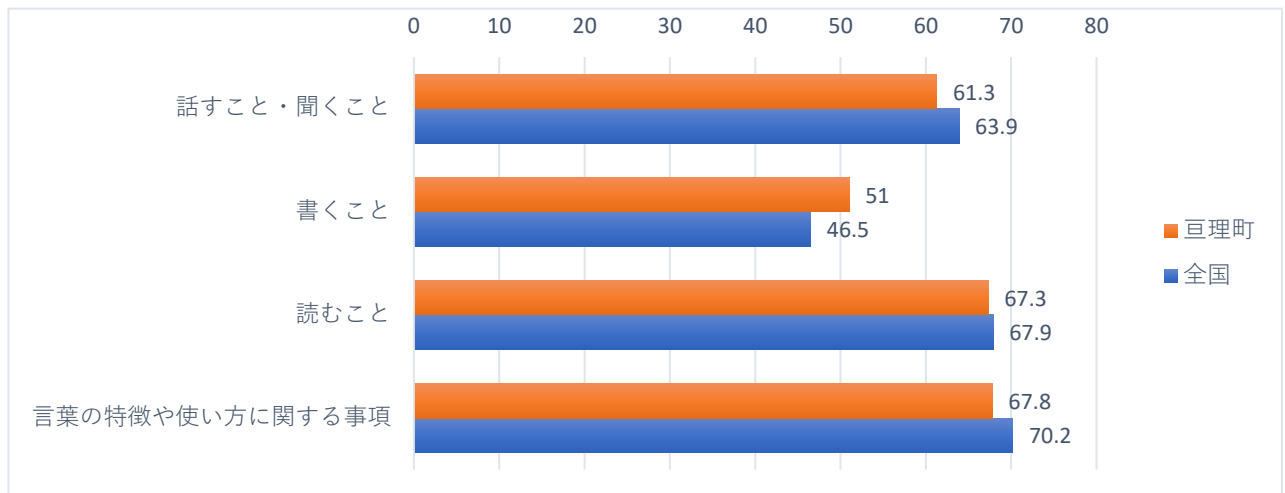
▼: 観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる[4(3)]

▼: 水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している[4(4)]

## (2) 中学校

### 【国語】

【平均正答率(%)】



平均正答率の全国との乖離

(◎: +5ポイント以上 ○: +1ポイント以上 ◇: -1ポイント以上+1ポイント未満 ▽: -1ポイント未満 ▼: -5ポイント未満)

#### <話すこと・聞くこと>

▽: 聞き手の興味・関心などを考慮して, 表現を工夫する[1一]

○: 論理の展開などに注意して聞く[1二]

▼: 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す[1三]

#### <書くこと>

○: 自分の考えが伝わる文章になるように, 根拠を明確にして書く[2三]

#### <読むこと>

▽: 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて, 描写を基に捉える[3三]

○: 場面と場面, 場面と描写などを結び付けて, 内容を解釈する[3一]

#### <言葉の特徴や使い方に関する事項>

▼: 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す[1三]

○: 助動詞の働きについて理解し, 目的に応じて使う[2一]

▽: 文脈に即して漢字を正しく書く「のぞく」[2二①]

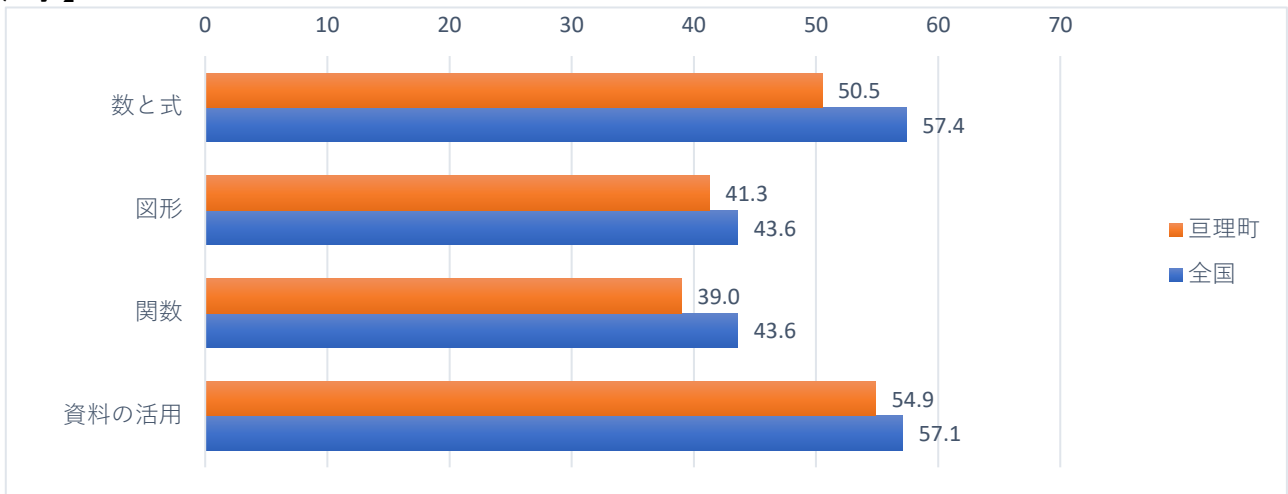
▽: 文脈に即して漢字を正しく書く「よろこんで」[2二②]

◎: 表現の技法について理解する[3一]

◇: 事象や行為, 心情を表す語句について理解する[3二]

## 【数 学】

【平均正答率(%)】



平均正答率の全国との乖離

(◎: +5ポイント以上 ○: +1ポイント以上 ◇: -1ポイント以上+1ポイント未満 ▽: -1ポイント未満 ▼: -5ポイント未満)

### <数と式>

▼: 自然数を素数の積で表すことができる〔1〕

◇: 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる〔2〕

▼: 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる〔6(1)〕

▼: 目的に応じて式を変形したり, その意味を読み取ったりして, 事柄が成り立つ理由を説明することができる〔6(2)〕

▼: 結論が成り立つための前提を考え, 新たな事柄を見だし, 説明することができる〔6(3)〕

### <図形>

▽: 反例の意味を理解している〔3〕

◇: 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している〔9(1)〕

▽: 筋道を立てて考え, 事柄が成り立つ理由を説明することができる〔9(2)〕

### <関数>

▽: 一次関数の変化の割合の意味を理解している〔4〕

◇: 与えられた表やグラフから, 必要な情報を適切に読み取ることができる〔8(1)〕

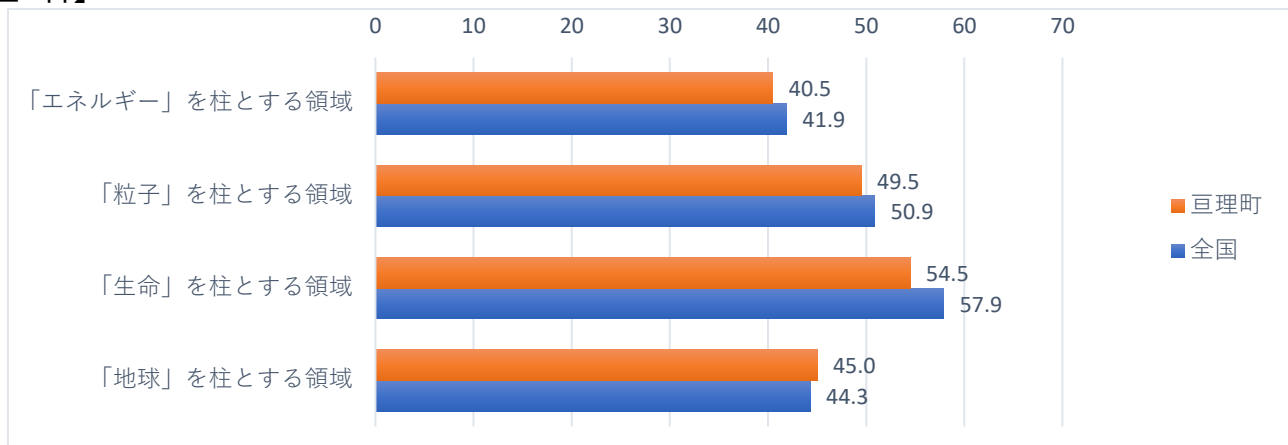
▼: 事象を数学的に解釈し, 問題解決の方法を数学的に説明することができる〔8(2)〕

### <データの活用>

◇: 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している〔5〕

▽: データの傾向を的確に捉え, 判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる〔7(1)〕

▽: 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる〔7(2)〕



平均正答率の全国との乖離

(◎: +5ポイント以上 ○: +1ポイント以上 ◇: -1ポイント以上+1ポイント未満 ▽: -1ポイント未満 ▼: -5ポイント未満)

### <「エネルギー」を柱とする領域>

- ▽: 物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる[1(1)]
- ◇: モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる[1(2)]
- ▽: 水素を燃料として使うしくみの例として必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる[3(3)]
- ▽: 物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる[5(1)]
- : 課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる[5(2)]
- ◇: 測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる[5(3)]

### <「粒子」を柱とする領域>

- ▽: 水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる[3(1)]
- : 化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる[3(2)]
- ▽: 水素を燃料として使うしくみの例として必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる[3(3)]
- ◇: 状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる[7(1)]
- ▽: 実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、実験の計画を改善できるかどうかをみる[7(2)]

### <「生命」を柱とする領域>

- ◇: 節足動物の外部形態の調べた内容を、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる[4(1)]
- ▽: あしの骨格について比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる[4(2)]
- ▽: 調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる[8(1)]
- ▽: 察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる[8(2)]
- ▽: 共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる[8(3)]

### <「地球」を柱とする領域>

- : 観測地の標高を空間的に捉え、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる[2(1)]
- ▽: 継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる[2(2)]
- : 考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる[2(3)]
- ◇: 岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる[6(1)]
- : 過去の大地の変動について、推論した他者の考察を検討して改善できるかどうかをみる[6(2)]



## 4 児童・生徒質問紙調査の結果の概要（※「児童生徒の回答」の一部抜粋）

- 「自分には、よいところがある」の項目について肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに県平均を下回っています。
- 平日の家庭学習の時間について、小学生で1時間以上学習している割合は県平均を上回っていますが、中学生では下回っています。
- 平日に30分以上読書をしている割合は、小学校では県平均と同等ですが、中学校では県平均を上回っています。
- 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と肯定的な回答をした児童生徒の割合は県平均を下回っています。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに下回っています。
- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでる」の項目について肯定的な回答をした割合は中学校で県平均を下回っています。

